

佐世保港 国際クルーズ拠点整備事業

国土交通省 港湾局

事業概要

【事業の目的】

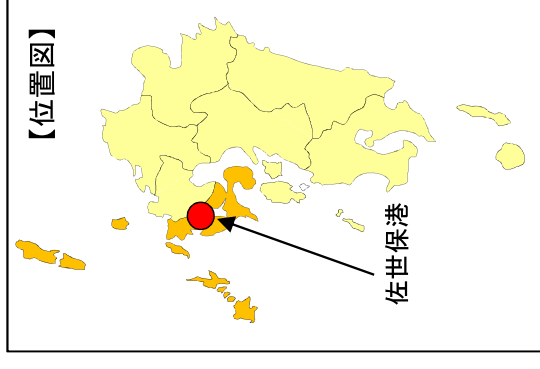
国際クルーズ拠点の形成に伴う東アジアを周遊するクルーズ船の寄港増加に対応するため、佐世保港浦頭地区において、港湾施設の整備を行う。

【事業の概要】

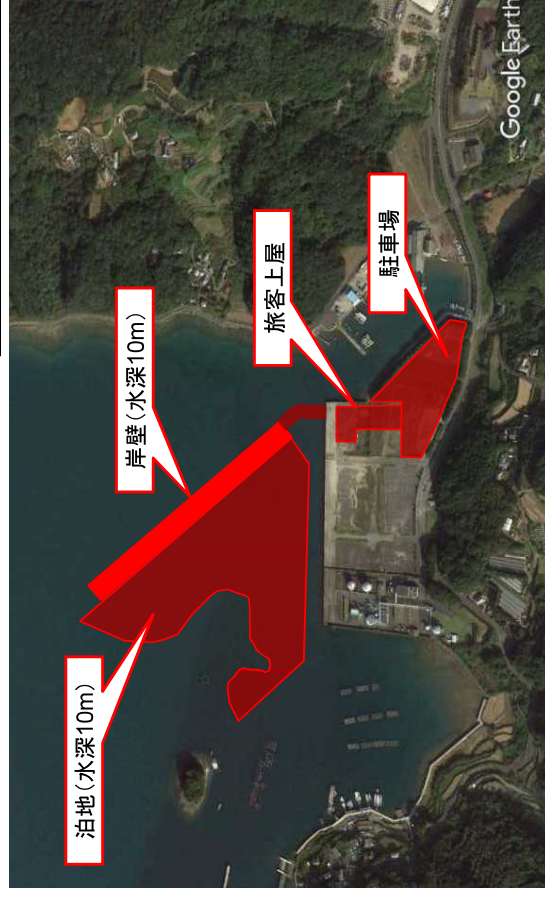
- 整備施設：岸壁（水深10m）、泊地（水深10m）、駐車場、旅客上屋
- 事業期間：平成29年度～平成31年度
- 事業費：65億円（うち、港湾整備事業費：53億円）

《整備スケジュール》

港名	地区名	区分	施設名	H29	H30	H31
佐世保港	浦頭	直轄	岸壁(水深10m)	■		
		直轄	泊地(水深10m)		■	
		起債	駐車場		■	
		民間	旅客上屋		■	



《位置図》



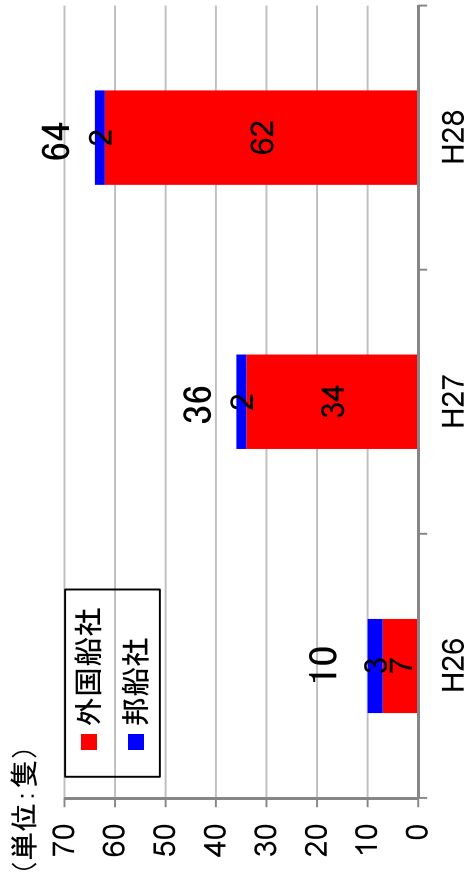
佐世保港の概要（クルーズ関連）

- ・ 佐世保港の背後には、大型観光施設であるハウステンボスなどをはじめ多数の観光資源に恵まれている。
- ・ また、九州の西端に位置し、クルーズ市場の成長著しい中国など東アジアに近接し、地理的優位性も高く、平成28年の寄港隻数は前年の36隻から64隻に大幅に増加している。

佐世保港のクルーズ船寄港状況



佐世保港のクルーズ船寄港状況



出典: 佐世保市からの情報をもとに作成 (H28.12時点)

佐世保港背後における主要な観光地

(中心地から35km)

歴史とロマンあふれる縮景き島 **平戸市**
 歴史公園 平戸城
 平戸港

(中心地から30km)

世界遺産に向けて **黒島・田平天主堂**
 黒島天主堂
 田平天主堂

(中心地から5km)

緑動といふ名の景観 **九十九島**
 九十九島公園
 黒島神社

(中心地から17km)

世界を魅了する **三川内・有田**
 三川内神社
 有田海神宮

(中心地から17km)

世代を超えて楽しめる **テーマパークハウステンボス**
 九十九島の夜景
 九州一絶の夜景

(中心地から20km)

西海橋・うず潮
 西海橋
 宇津野神社

(中心地から40km)

心も身体も運まる湖の里 **嬉野・武雄**
 嬉野神社
 武雄神社

佐世保港
 ~すべて60分圏内~

【佐世保港】官民連携国際クルーズ拠点形成計画書（目論見）の概要

応募者	佐世保市、カーニバル・コーポレーション&PLC(カーニバル社)
国際クルーズ拠点形成の目標	東アジアからのゲートウェイ機能を有した日本有数の拠点港として発展していくことを目指す。
寄港回数 の目標	運用開始年（H32年）：200回 目標年（H36年）：300回

◆三浦地区

○16万トン級クルーズ船に対応するための改良工事を実施中。

◆岸壁

（16万トン級対応予定（既設・延伸整備中））

◆旅客ターミナルビル（既設）

佐世保港三浦地区



◆浦頭地区

○カーニバル社が、東アジアクルーズの日本における拠点港として優先的に使用予定。

◆岸壁

（14万トン級対応（計画））

◆旅客ターミナルビル<カーニバル社>

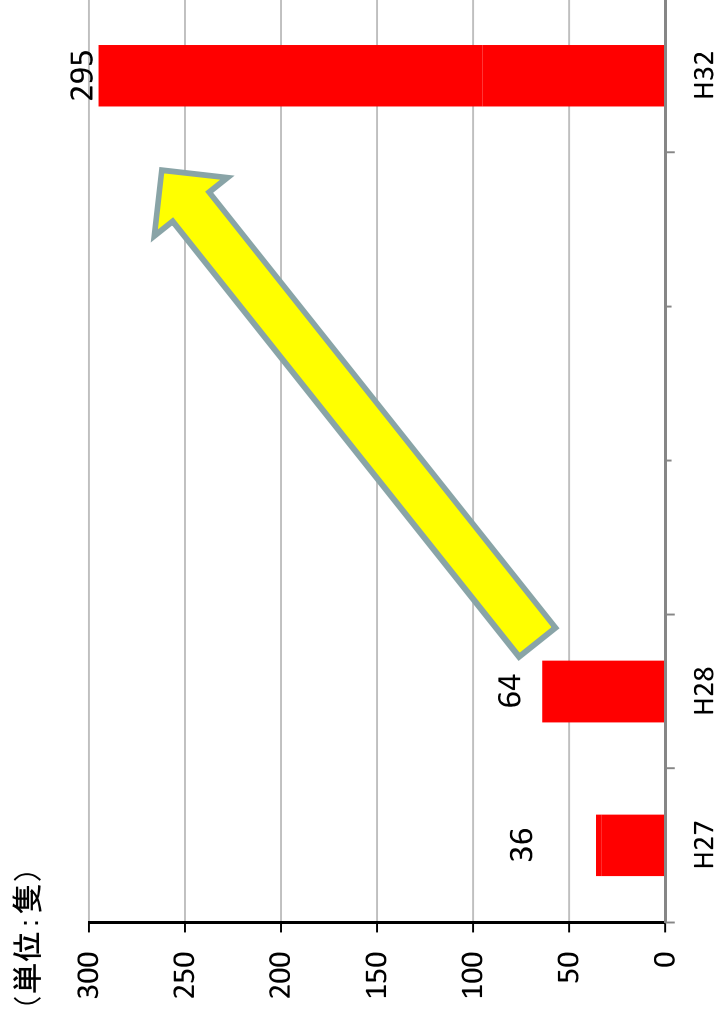
カーニバル社が地元物産品の販売所を併設する旅客ターミナルビルを整備。

佐世保港浦頭地区



- ・佐世保港では、国際クルーズ船拠点として、平成32年に、年間295回、最大16万トン級のクルーズ船の寄港を目標としている。
- ・現在整備中の三浦地区の水深10m岸壁の一部は、海上自衛隊との共同使用となることから、クルーズ船が利用できる日数は制限され、想定される将来需要に対応できない状況にある。

佐世保港におけるクルーズ船寄港需要



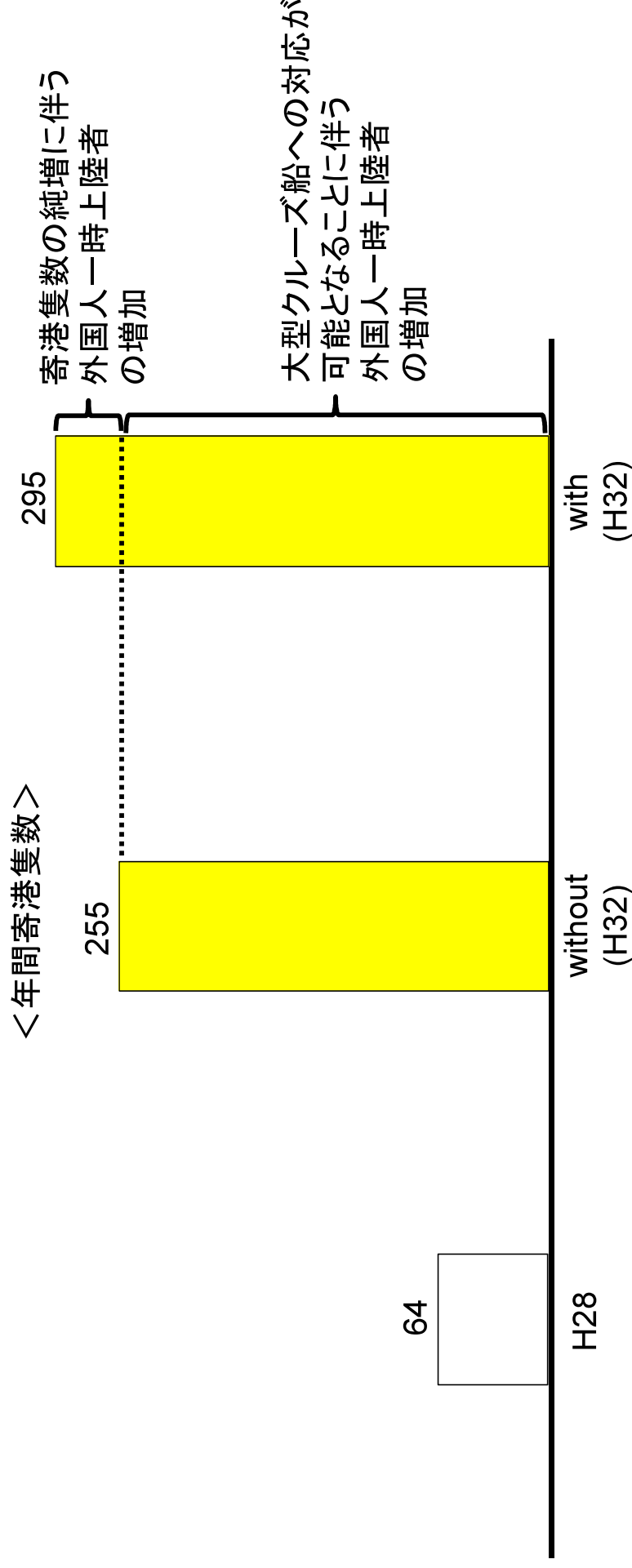
クルーズ船受入岸壁の配置状況



クルーズ船寄港岸壁(整備中含)
 今回の事業箇所

費用便益分析におけるクルーズ需要等の設定

- ・ 事業を実施する場合（with時）の年間寄港隻数は、各船社からのヒアリング結果をもとに設定。
- ・ 事業を実施しない場合（without時）の年間寄港隻数は、既存施設で受け入れが可能な最大隻数を設定。
- ・ 上記を元に、事業実施による寄港隻数の純増及び大型クルーズ船への対応が可能となることに伴う外国人一時上陸者の増分を算出し、外国人一時上陸者の増加に伴う外航クルーズ船の入港による国際観光純収入の増加を便益として計上する。



寄港隻数純増に伴う訪日外国人一時上陸者の増分 : 86,400人/年
 大型クルーズ船への対応が可能となることに伴う訪日外国人一時上陸者の増分 : 59,400人/年

※外航クルーズ船の入港による国際観光純収入の増加便益(円/年)＝外国人一時上陸者数の増分×1人あたり観光消費額(20,000円)
 (「港湾整備事業の費用対効果分析マニュアル」による)

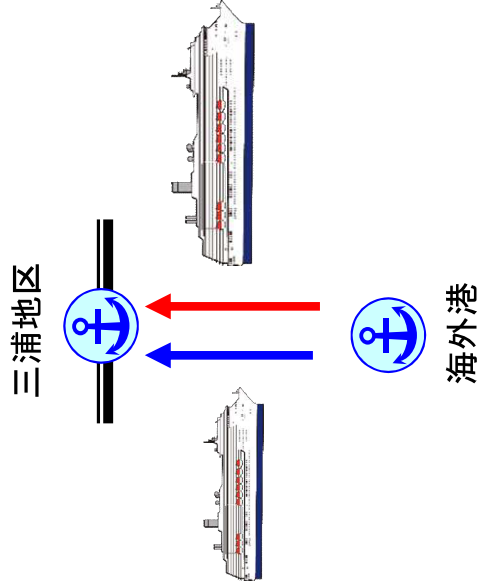
本事業における便益

外航クルーズ船の入港による国際観光純収入の増加便益

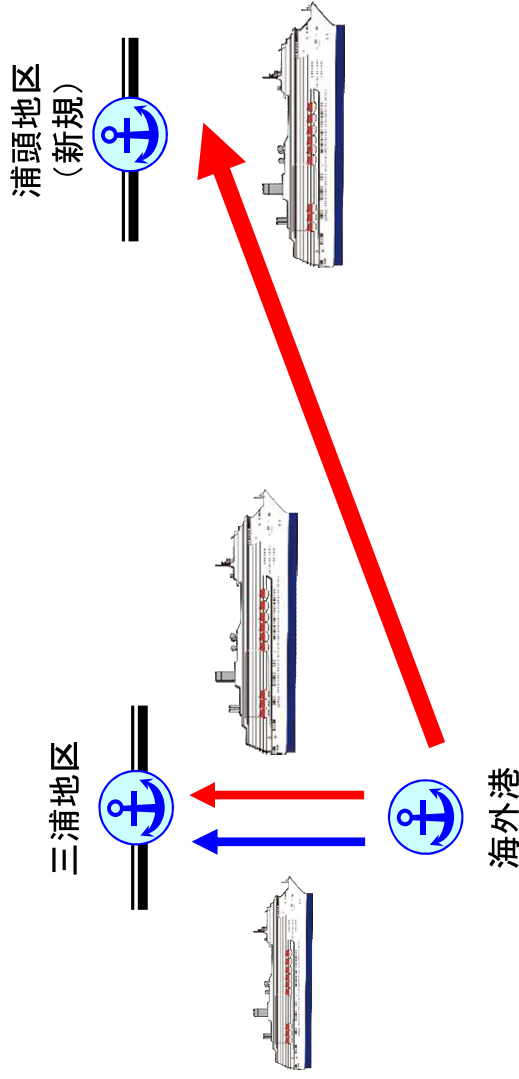
557億円

新たなクルーズ需要への対応が可能となることにより、国際観光純収入が増加する。

Without時



With時



費用便益分析の結果（現在価値化後）



	項目	評価期間内 便益・費用(億円)
便益	外航クルーズ船の入港による国際観光純収入の増加便益	557
	残存価値	1
	小計	<u>557</u>
費用	事業費・再投資費	61
	維持管理費	6
	小計	<u>66</u>

費用便益比(B/C)	8.4
純現在価値(B-C)	491億円
経済的内部収益率(EIRR)	38.1%

注：端数処理のため、合計は必ずしも一致しない。

事業効果（貨幣換算が困難な効果等）

【①雇用の創出、地域活力の向上、国際交流の促進】

クルーズ船の寄港隻数が増加やそれに伴う外国人一時上陸者の増加により、地域の観光関連産業の収益が増大し、新たな雇用が創出され、地域活力の向上が見込まれる。また、外国人との交流機会が増加することで、国際交流の促進については我が国に対する国際的な好感度の向上にも繋がることが期待される。

【②港を通じた地域の振興】

クルーズ船の寄港隻数の増加やそれに伴う外国人一時上陸者の増加を契機として、地域住民等による、港の景観向上や地域づくりの取組みなどが促進され、港を通じた地域の振興が期待される。

【③訪日クルーズ旅行の魅力の向上】

佐世保港近傍の豊富な観光地等を巡るクルーズ観光の拠点となるターミナルが形成されることで、我が国に寄港するクルーズツアーの選択肢が増加し、我が国のクルーズ旅行全体の魅力向上が見込まれる。

【④観光地としての魅力の向上】

クルーズ船の一時上陸者や見学者が増加することで、観光地としての地域の魅力や知名度の向上が見込まれる。